

2. ワーク・ライフ・バランスについて

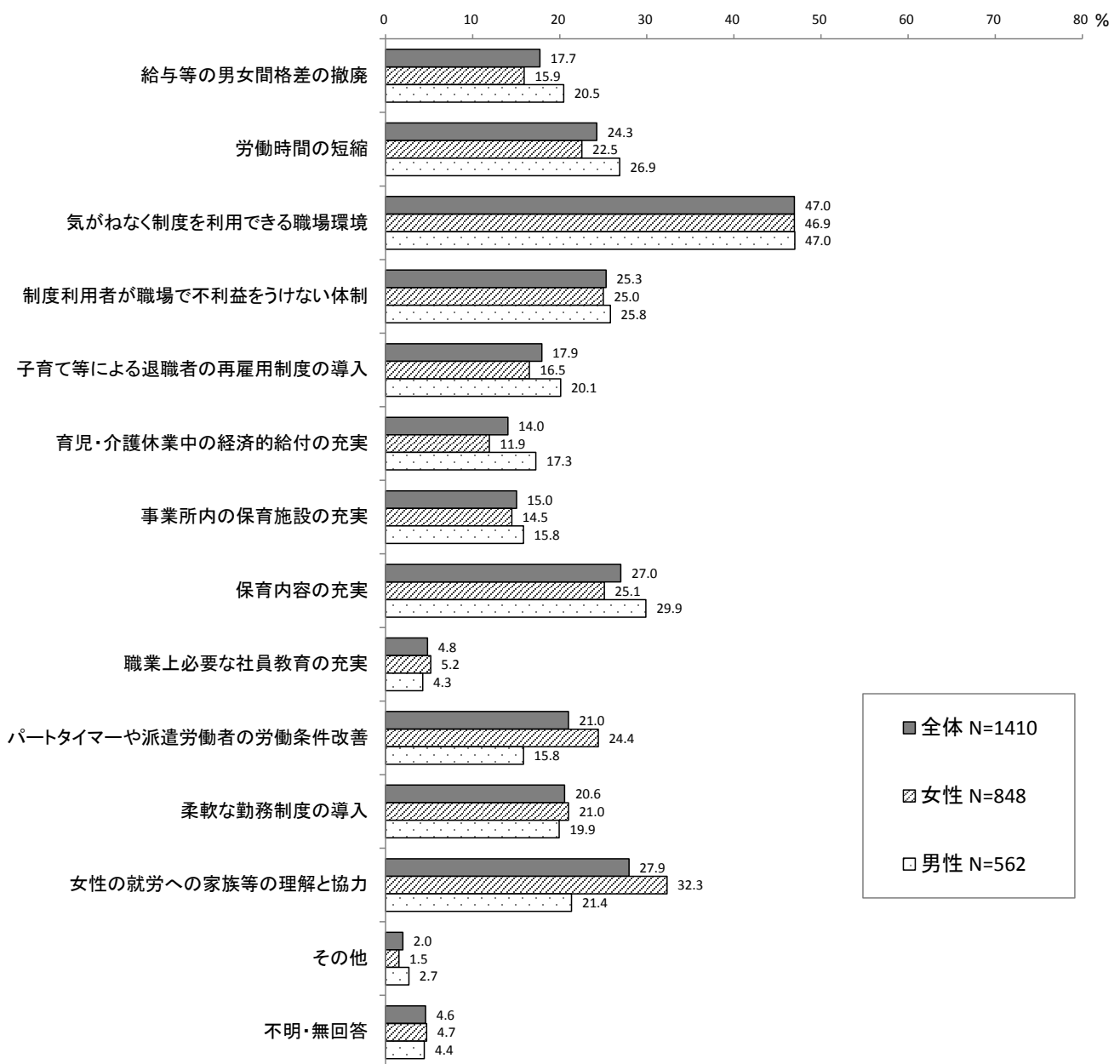
(1) 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するための条件

問 16 男女がともに、仕事と家庭の両立を実現するためには、どのような条件が特に必要だと思いますか (〇は3つまで)

男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要な条件は、「気がねなく制度を利用できる職場環境」が47.0%と最も多く、次いで「女性の就労への家族等の理解と協力」が27.9%、「保育内容の充実」が27.0%となっている。

【性別】

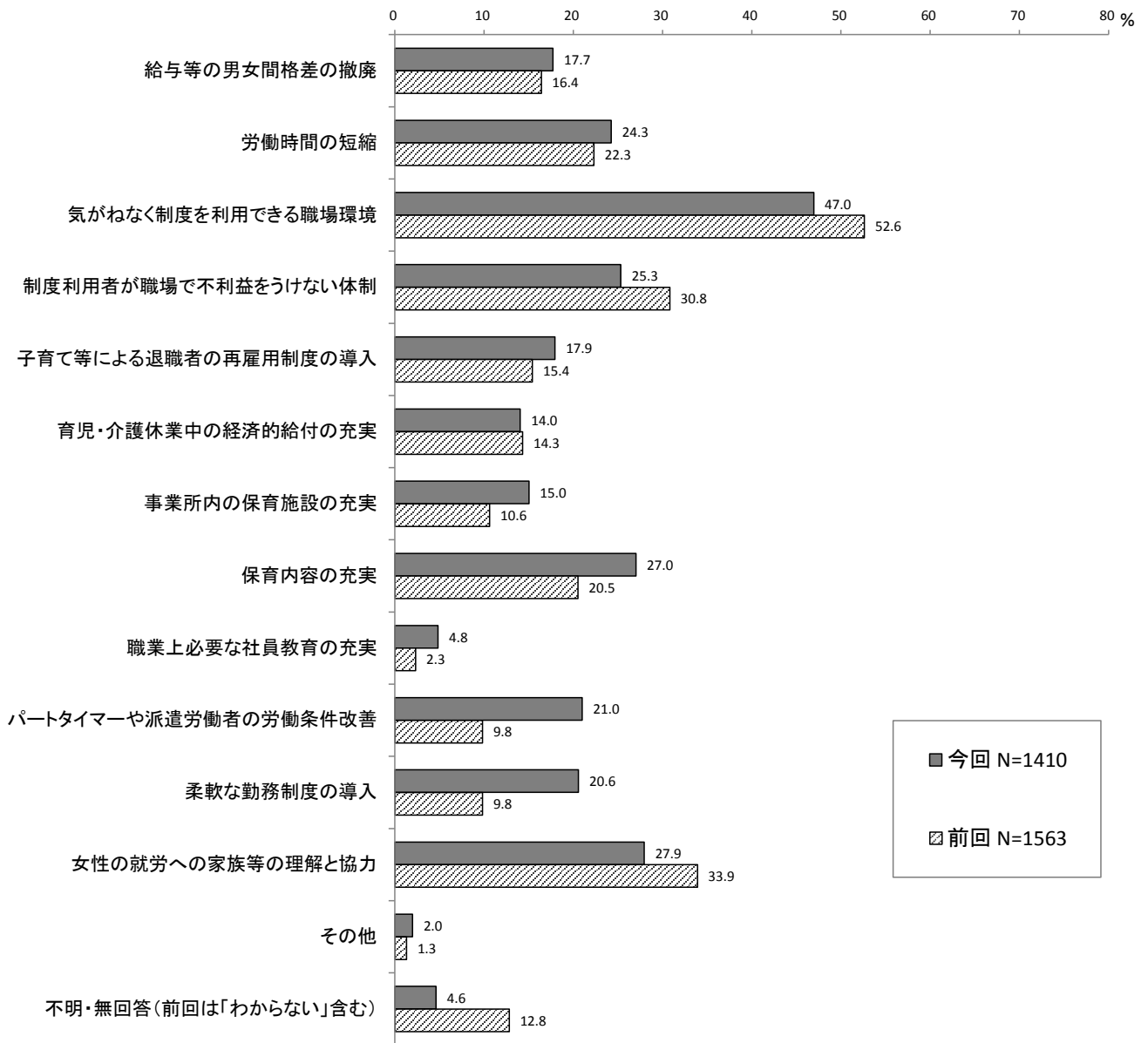
男女ともに「気がねなく制度を利用できる職場環境」が最も多く約5割である。次いで、女性では「女性の就労への家族等の理解と協力」32.3%、「保育内容の充実」25.1%、男性では「保育内容の充実」29.9%、「労働時間の短縮」26.9%となっており男女で異なっている。



【前回比較】

前回調査（奈良県による平成12年度男女共同参画についてのアンケート）と同様、「気がねなく制度を利用できる職場環境」、「女性の就労への家族等の理解と協力」の順に多い。

3番目に多い項目は、前回は「制度利用者が職場で不利益をうけない体制」であったが、今回は「保育内容の充実」と異なっている。



※前回：平成12年度 男女共同参画についてのアンケート

(2) 男性の育児休業取得への意見

問 17-1 男性が育児休業を取得することについてどう思いますか

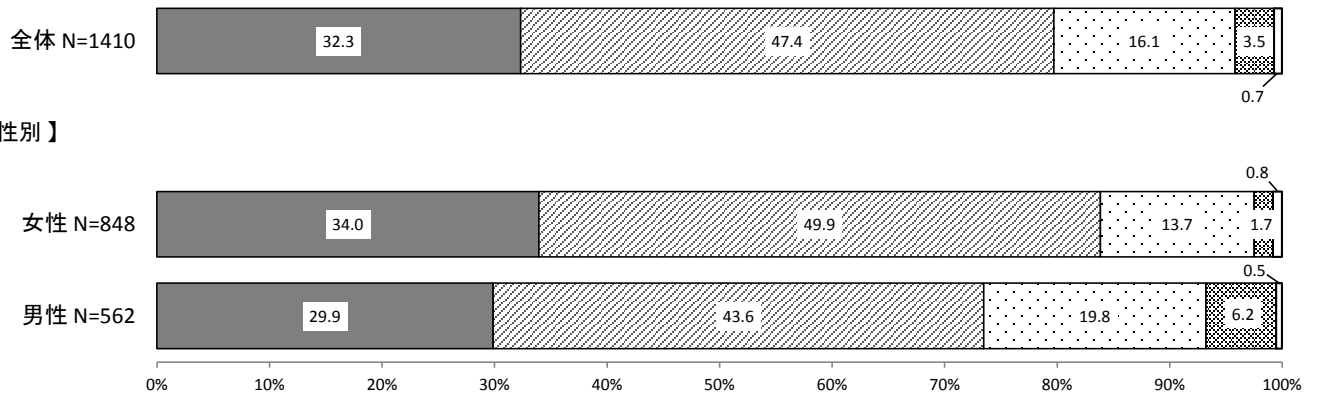
(○は1つ)

男性が育児休業を取得することについて、「取得した方がよい」を含む肯定的な意見（「積極的に取得した方がよい」と「どちらかという取得した方がよい」の合計）は79.7%と多い。

【性別】

女性では83.9%と男性に比べて「取得した方がよい」を含む肯定的な意見が10.4ポイント多い。

■積極的に取得した方がよい □どちらかという取得した方がよい ▨どちらかという取得しない方がよい ▩取得しない方がよい ○不明・無回答



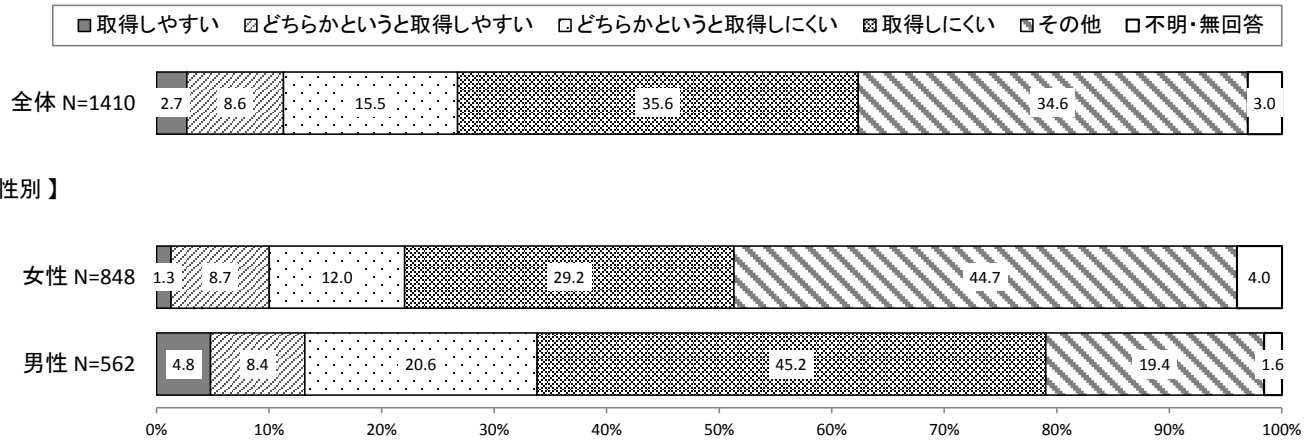
(3) 男性の育児休業取得の現状

問 17-2 あなたの職場では、男性が育児休業を取得しやすいですか (○は1つ)
 (働いていない方は、その他に○をつけてください)

職場で男性が育児休業を取得することについて、「取得しにくい」を含む回答（「取得しにくい」と「どちらかといえば取得しにくい」の合計）は51.1%である。

【性別】

男性では65.8%と女性に比べて「取得しにくい」を含む回答が24.6ポイント多い。



(4) 男性の介護休業取得への意見

問 18-1 男性が介護休業を取得することについてどう思いますか

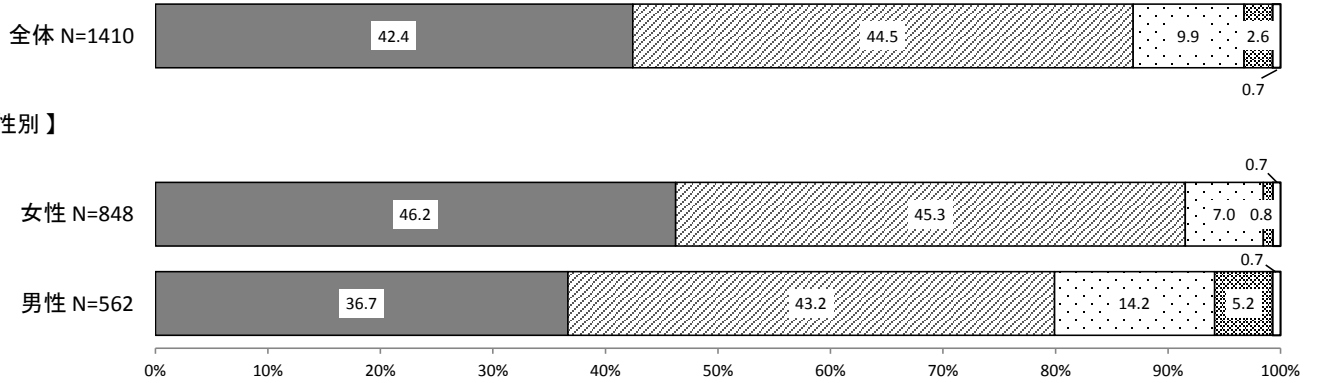
(○は1つ)

男性が介護休業を取得することについて、「取得した方がよい」を含む肯定的な意見（「積極的に取得した方がよい」と「どちらかという取得した方がよい」の合計）は86.9%と多い。

【性別】

女性では91.5%と男性に比べて「取得した方がよい」を含む肯定的な意見が11.6ポイント多い。

■積極的に取得した方がよい □どちらかという取得した方がよい □どちらかという取得しない方がよい □取得しない方がよい □不明・無回答



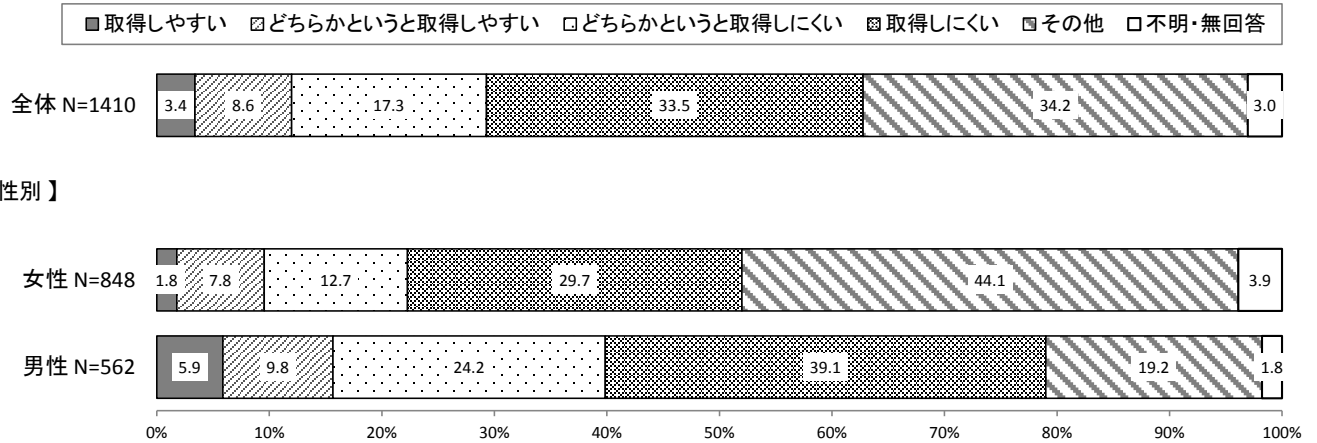
(5) 男性の介護休業取得の現状

問 18-2 あなたの職場では、男性が介護休業を取得しやすいですか (○は1つ)
 (働いていない方は、その他に○をつけてください)

職場で男性が介護休業を取得することについて、「取得しにくい」を含む回答（「取得しにくい」と「どちらかといえば取得しにくい」の合計）は50.8%である。

【性別】

男性では63.3%と女性に比べて「取得しにくい」を含む回答が20.9ポイント多い。



(6) ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

- | | | |
|--------|---|--------|
| 問 19-1 | 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか | (○は1つ) |
| 問 19-2 | あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか | (○は1つ) |

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、希望は『「仕事」と「家庭生活」』優先が 31.0%と最も多く、次いで『家庭生活』優先が 28.2%、『すべて(「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」)』優先が 19.9%となっている。

一方、現実には『仕事』優先が 31.0%と最も多く、次いで『家庭生活』優先が 29.9%、『「仕事」と「家庭生活」』優先が 19.8%となっている。

希望と現実の乖離が大きいものとして、『仕事』優先については、希望より現実の方が 26.9 ポイント多く、『すべて』優先については、希望より現実の方が 15.4 ポイント少ないことがあげられる。

【性別】

女性の希望は、『家庭生活』優先が 33.3%と最も多く、次いで『「仕事」と「家庭生活」』優先が 26.5%となる。また、女性の現実も『家庭生活』優先が 42.7%と最も多く、次いで『仕事』優先が 18.6%となる。

男性の希望は『「仕事」と「家庭生活」』優先が 37.7%と最も多く、次いで『家庭生活』優先が 20.5%となる。また、男性の現実も、『仕事』優先が 49.6%、次いで『「仕事」と「家庭生活」』優先が 22.1%となる。

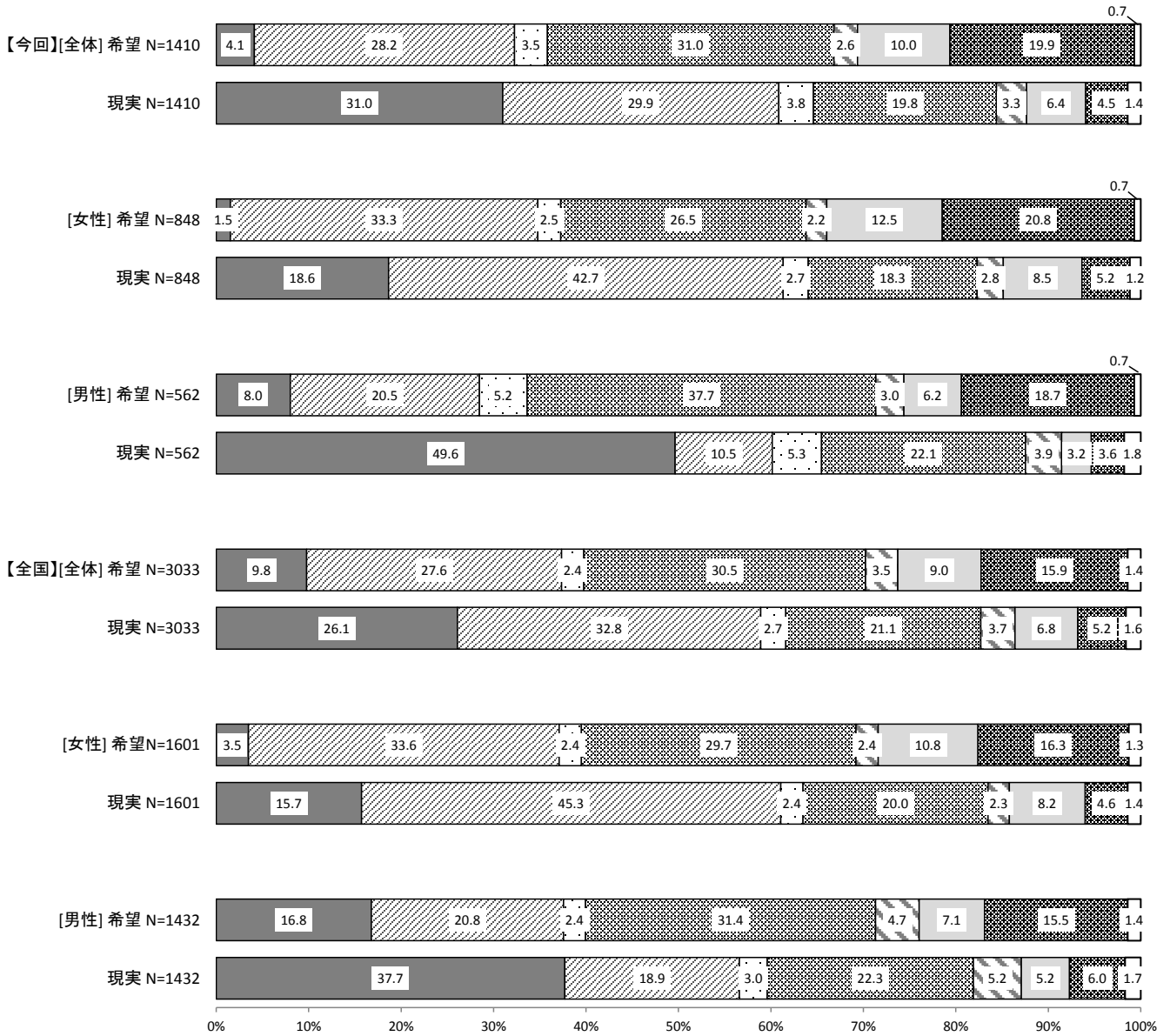
男性の『仕事』優先については、希望と現実の乖離が 41.6 ポイントと非常に大きい。

【全国比較】

全体についてみると、希望については、『「仕事」と「家庭生活」』優先、次いで『家庭生活』優先、『すべて』優先の順に多く、全国と同傾向である。一方、現実については、全国では『家庭生活』優先が 32.8%と最も多いが、奈良県では『仕事』優先が 31.0%で最も多い。

性別にみると、奈良県男性は全国に比べ『仕事』についての希望と現実の乖離が大きく、全国は 20.9 ポイントの乖離だが、奈良県は 41.6 ポイントの乖離となっている。

- 「仕事」を優先
- ▨「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- ▩「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▧「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▦「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 不明・無回答(全国は「わからない」)



※全国：平成 24 年度 男女共同参画社会に関する世論調査

(7) 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度

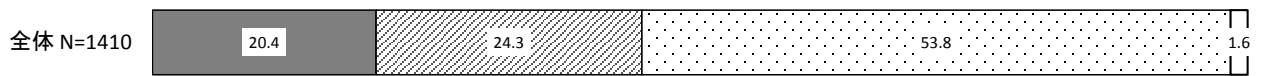
問 20-1 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉をご存じですか
 (〇は1つ)

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉について、「言葉も内容も知らない」が53.8%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が24.3%、「言葉も内容も知っている」が20.4%となっており、認知度は低い。

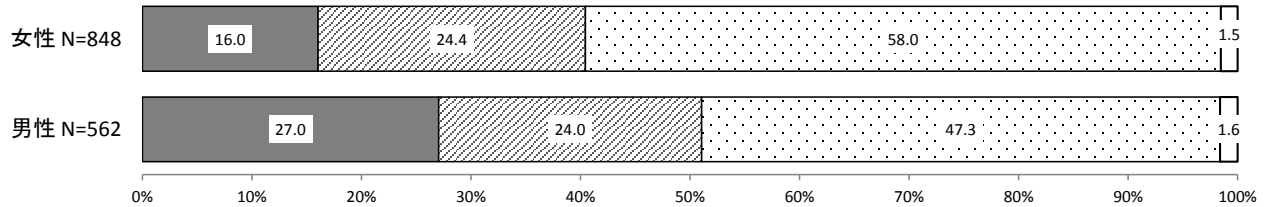
【性別】

女性は男性に比べて「言葉も内容も知らない」は10.7ポイント多く、「言葉も内容も知っている」は11.0ポイント少ないため、特に女性の認知度は低い。

■言葉も内容も知っている □言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない □言葉も内容も知らない □不明・無回答



【性別】



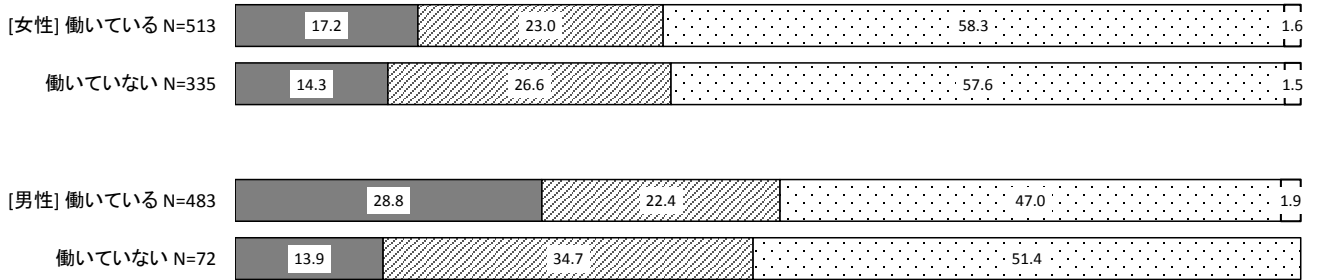
【性・就労の有無別・主な就業形態別】

就労の有無による認知度の差は男性で大きく、働いている男性は「言葉も内容も知っている」が28.8%と働いていない男性に比べて14.9ポイント多い。

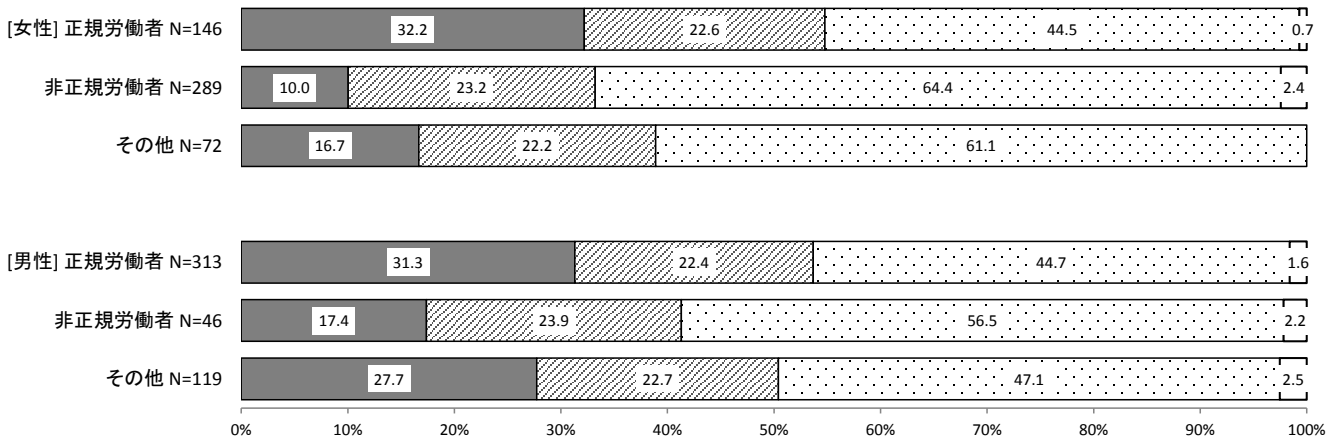
主な就業形態別にみると、「正規労働者」の認知度は「非正規労働者」より高く、「言葉も内容も知っている」が男女ともに約3割であり、男女による差は少ない。一方、「その他」や「非正規労働者」では女性の認知度は男性に比べて低い。「言葉も内容も知っている」についてみると、「その他」では女性の方が11.0ポイント少なく、「非正規労働者」では女性の方が7.4ポイント少ない。

■ 言葉も内容も知っている ▨ 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない □ 言葉も内容も知らない ○ 不明・無回答

【性・就労の有無別】



【性・主な就業形態別*】

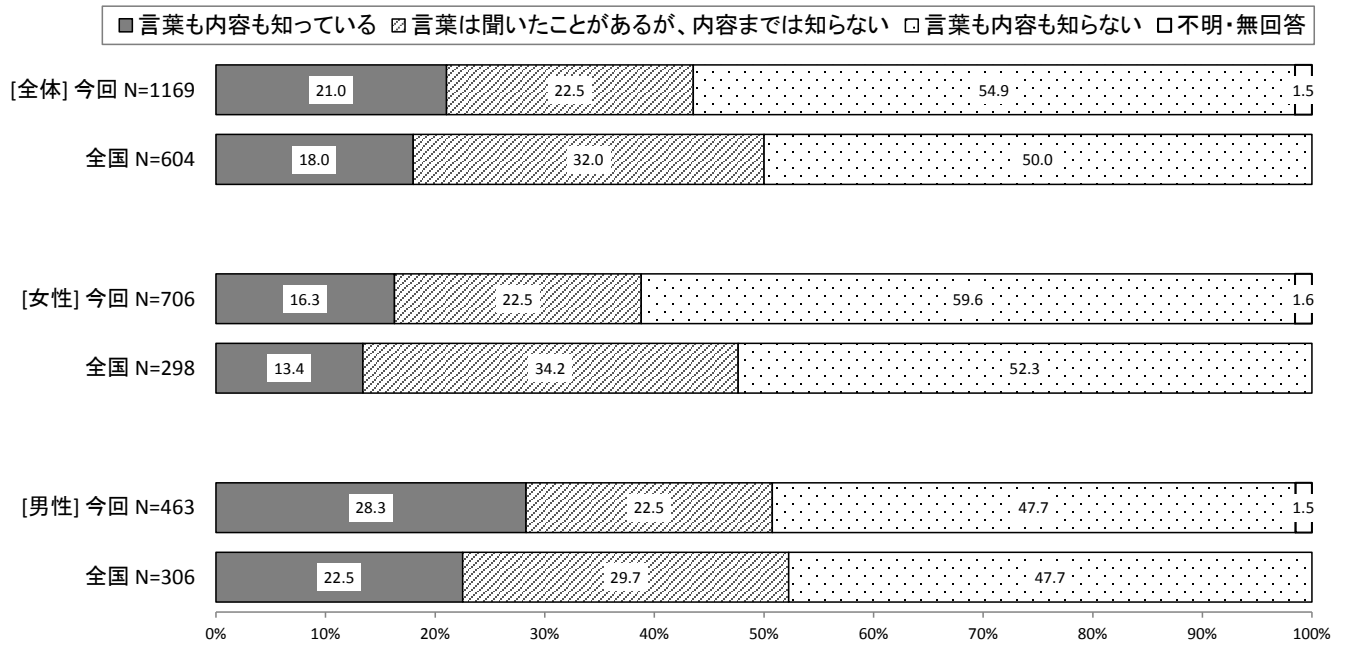


* 主な就業形態別

- ・ 正規労働者 : 「正規の職員・従業員」のみ
- ・ 非正規労働者 : 「パート・アルバイト」「派遣社員」「契約社員・嘱託」
- ・ その他 : 上記以外

【全国比較】

20歳代～50歳代について全国と比べると、「言葉も内容も知らない」が4.9ポイント多いが、「言葉も内容も知っている」も3.0ポイント多い。また、男性に比べて女性の認知度が低い傾向にあるのは全国と同様である。



※全国：平成24年度 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査
 ※20歳～59歳で比較

(8) 「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」についての印象

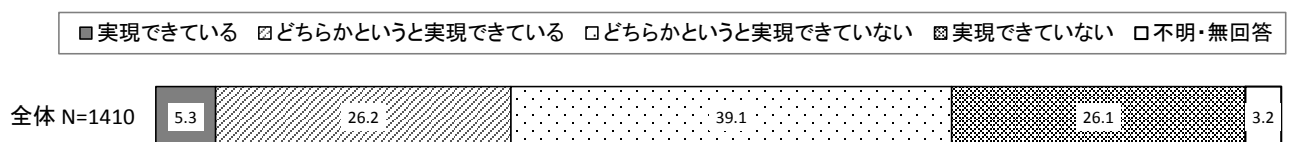
問 20-2 あなた自身の生活や周りの環境から判断して、以下の社会が実現できていると思いますか
(○はそれぞれ1つずつ)

ワーク・ライフ・バランスについて、「就労による経済的自立が可能な社会」「健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会」の実現は、「できている」を含む回答（「実現できている」と「どちらかという実現できている」の合計）を約3割の方が選択しているが、「多様な働き方・生き方が選択できる社会」では約2割と少ない。

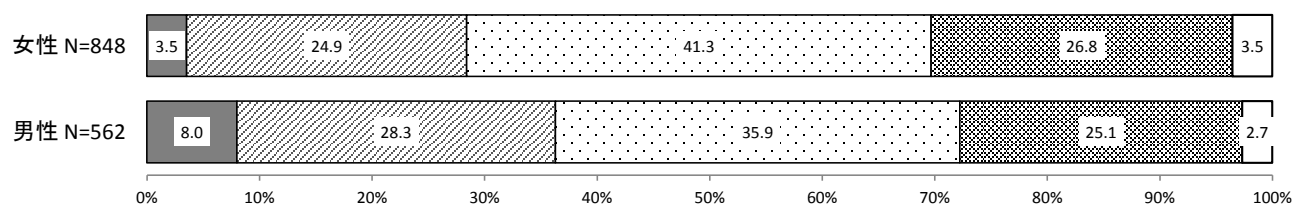
【性別】

男女を比較すると「健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会」と「多様な働き方・生き方が選択できる社会」では男女による差は少ないが、「就労による経済的自立が可能な社会」では女性は男性に比べ「できている」を含む回答が7.9ポイント少ない。

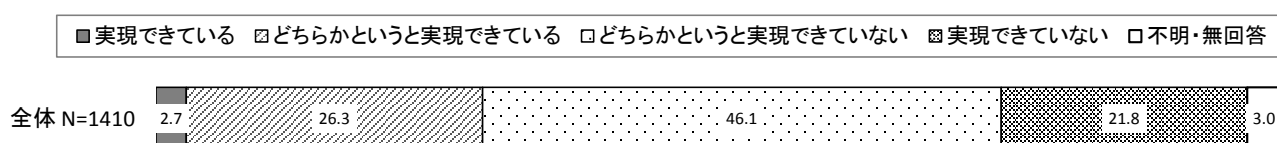
①就労による経済的自立が可能な社会



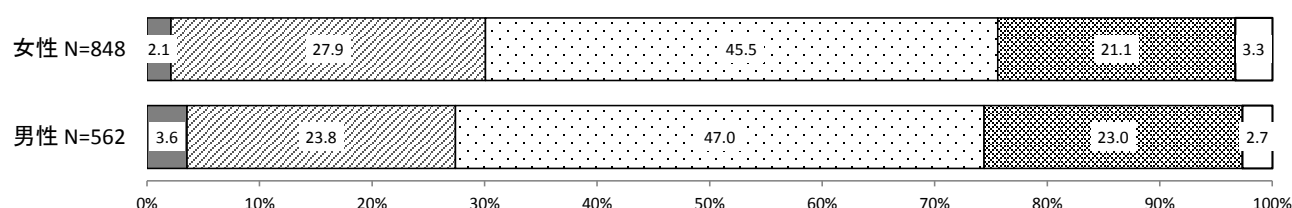
【性別】



②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

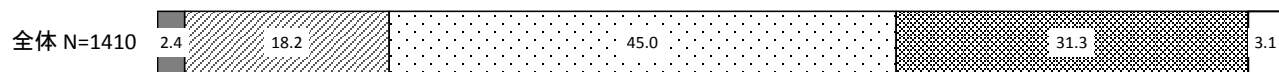


【性別】

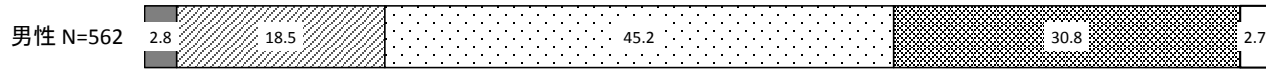
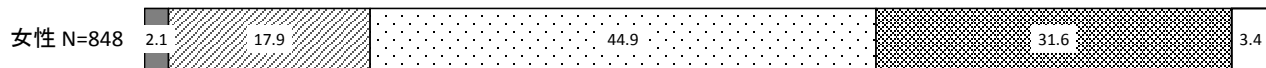


③多様な働き方・生き方が選択できる社会

■実現できている □どちらかという実現できている □どちらかという実現できていない ▨実現できていない □不明・無回答



【性別】



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

(9) 女性の社会での活躍に必要なこと

問 21-1 女性が社会で活躍するために必要なことは何だと思いますか (〇はいくつでも)

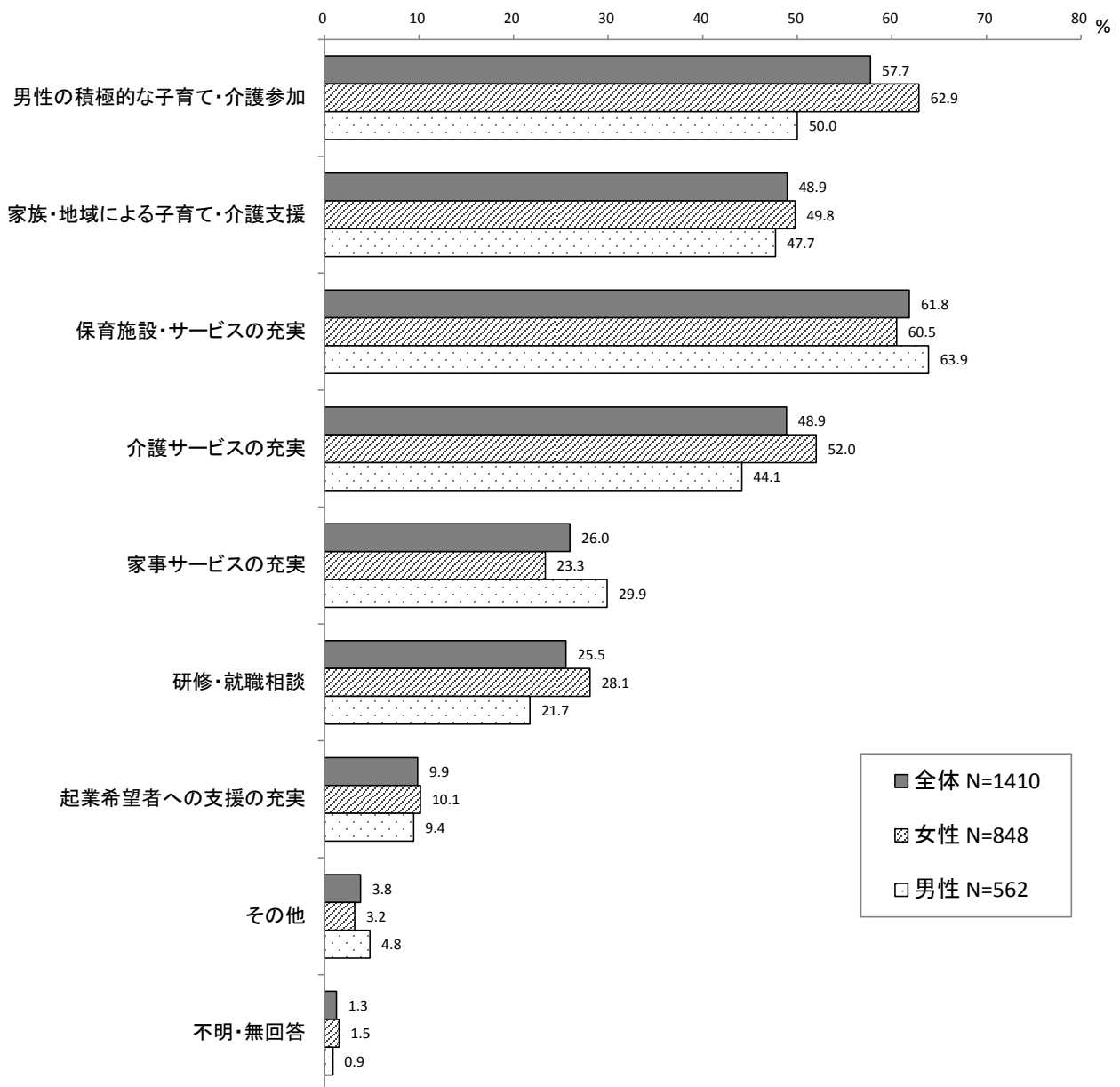
女性が社会で活躍するために必要なことは、「保育施設・サービスの充実」(61.8%)、「男性の積極的な子育て・介護参加」(57.7%)の順に多く、次いで、同率(48.9%)で「家族・地域による子育て・介護支援」及び「介護サービスの充実」となっている。

【性別】

女性では「男性の積極的な子育て・介護参加」が62.9%と最も多く、次いで「保育施設・サービスの充実」(60.5%)、「介護サービスの充実」(52.0%)となる。

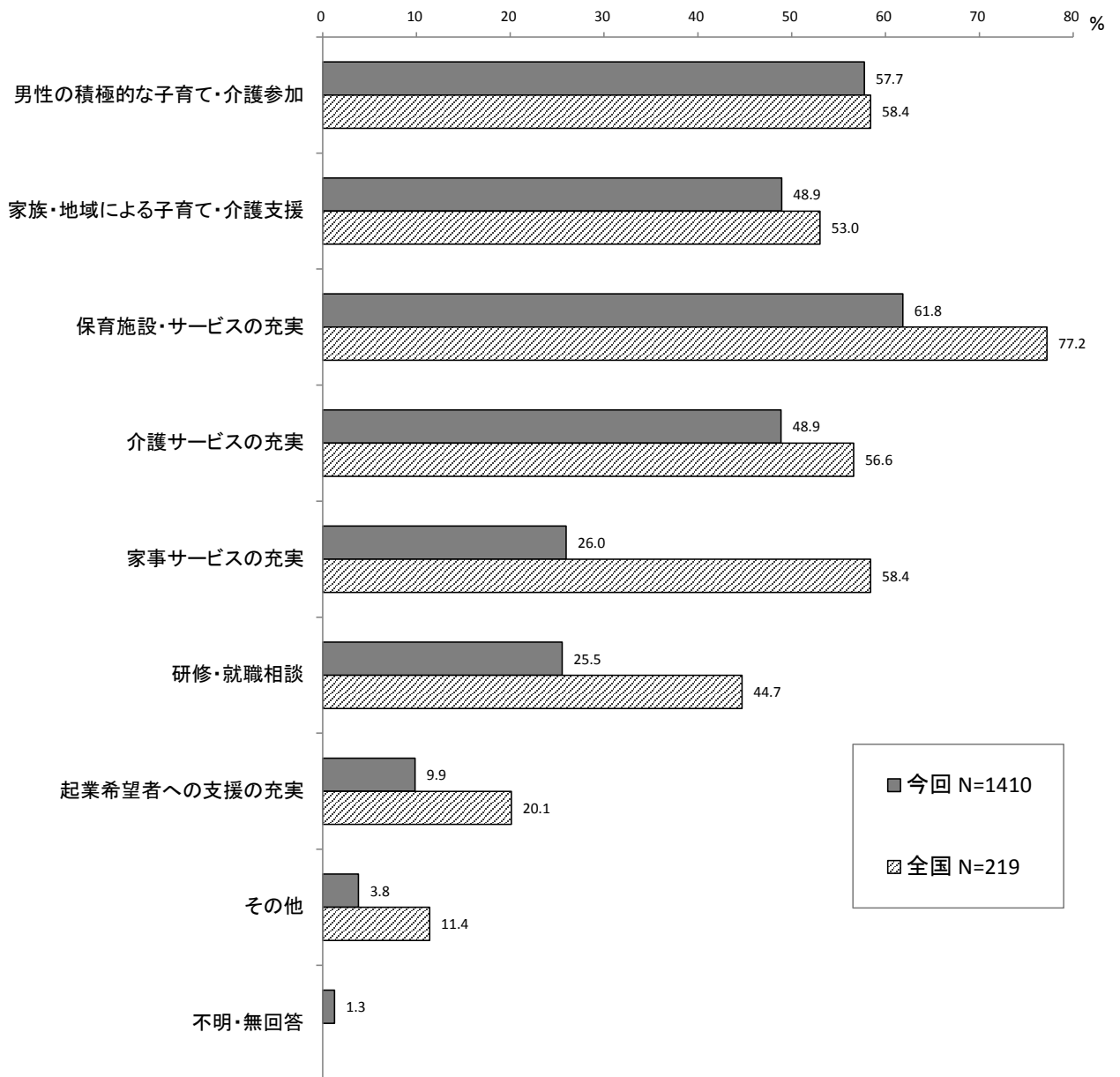
それに対し、男性では、「保育施設・サービスの充実」が63.9%と最も多く、次いで「男性の積極的な子育て・介護参加」(50.0%)、「家族・地域による子育て・介護支援」(47.7%)となる。

男性は女性に比べ「男性の積極的な子育て・介護参加」の選択者が12.9ポイント少ない。



【全国比較】

全国に比べ奈良県の方が 15 ポイント以上少ないのは、「家事サービスの充実」(32.4 ポイント)、「研修・就職相談」(19.2 ポイント)、「保育施設・サービスの充実」(15.4 ポイント)である。



※全国：平成 24 年度 若者・女性の活躍推進に関するアンケート調査

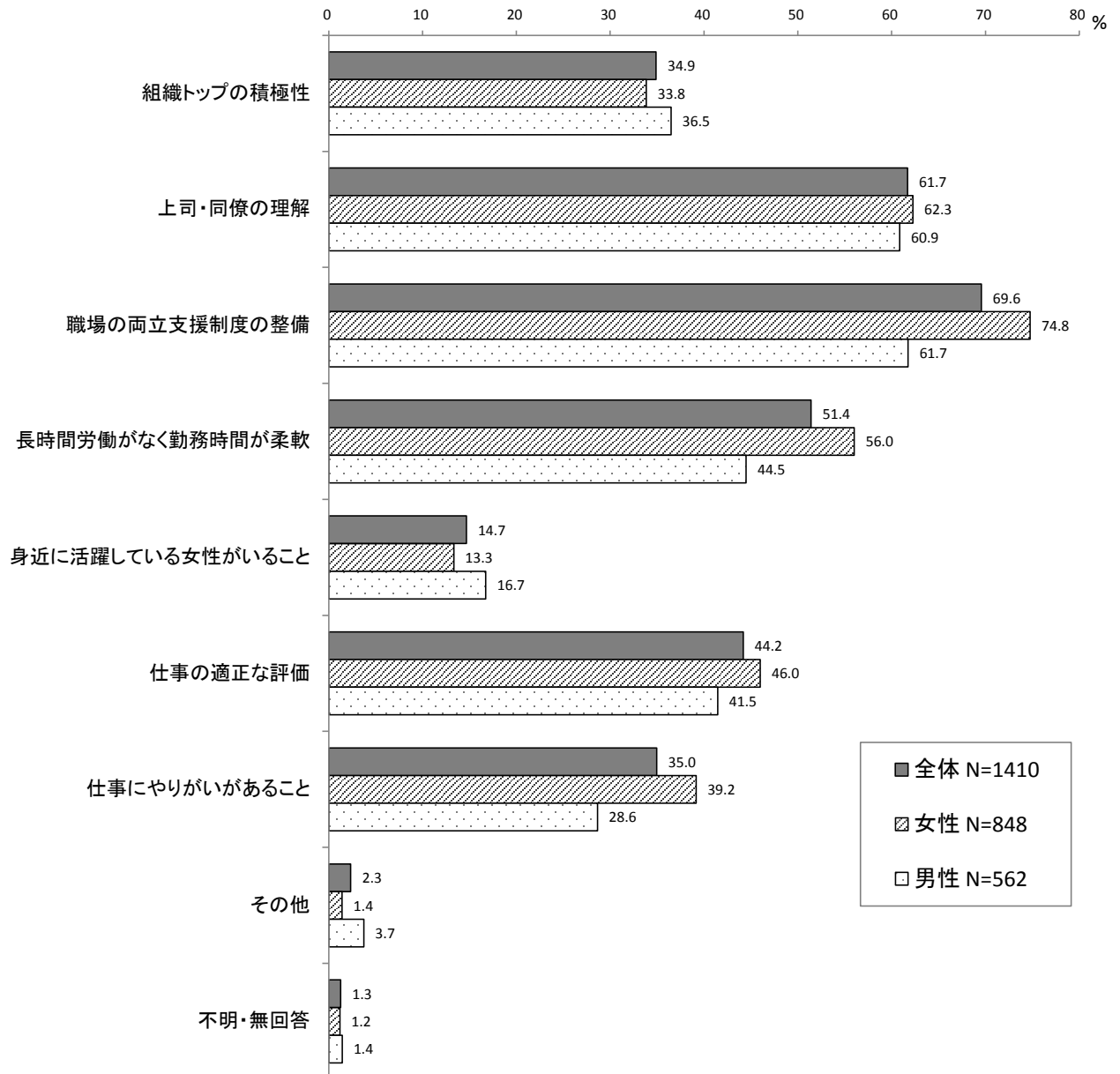
(10) 女性の職場での活躍に必要なこと

問 21-2 女性が職場で活躍するために必要なことは何だと思えますか (〇はいくつでも)

女性が職場で活躍するために必要なことは、「職場の両立支援制度の整備」が69.6%と最も多く、次いで「上司・同僚の理解」が61.7%、「長時間労働がなく勤務時間が柔軟」が51.4%となっている。

【性別】

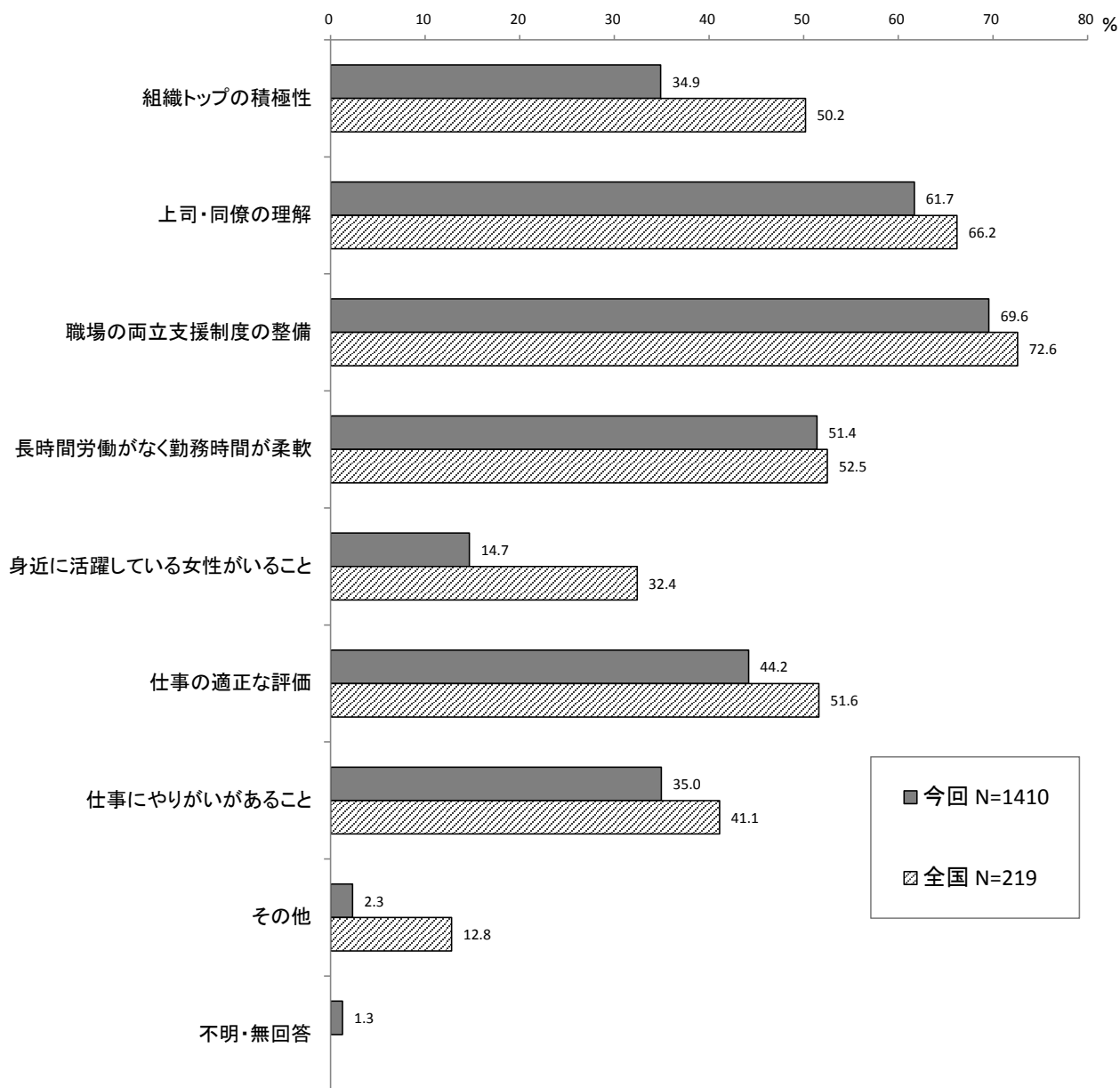
男女による上位3項目の順位に違いはないが、女性の方が男性に比べて「職場の両立支援制度の整備」や「長時間労働の必要がなく勤務時間が柔軟」をより必要としている。



【全国比較】

奈良県と全国で上位3項目の順位に違いはない。

全国に比べ奈良県の方が15ポイント以上少ないのは、「身近に活躍している女性がいること」(17.7ポイント)、「組織トップの積極性」(15.3ポイント)である。



※全国：平成24年度 若者・女性の活躍推進に関するアンケート調査

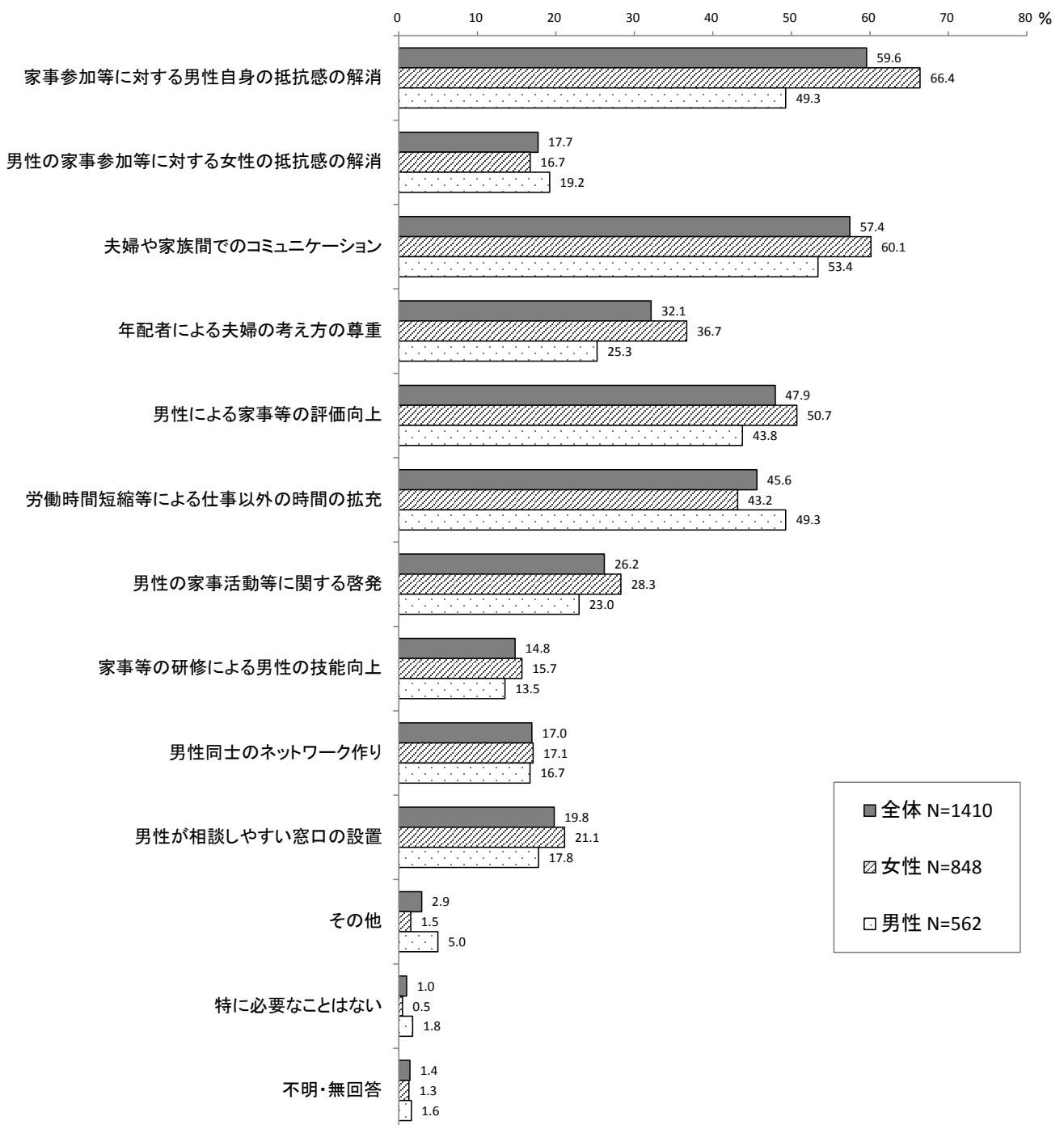
(11) 男性の家事・子育て・介護・地域活動参加に必要なこと

問 22 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか (〇はいくつでも)

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「家事参加等に対する男性自身の抵抗感の解消」が 59.6%と最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が 57.4%、「男性による家事等の評価向上」が 47.9%となっている。

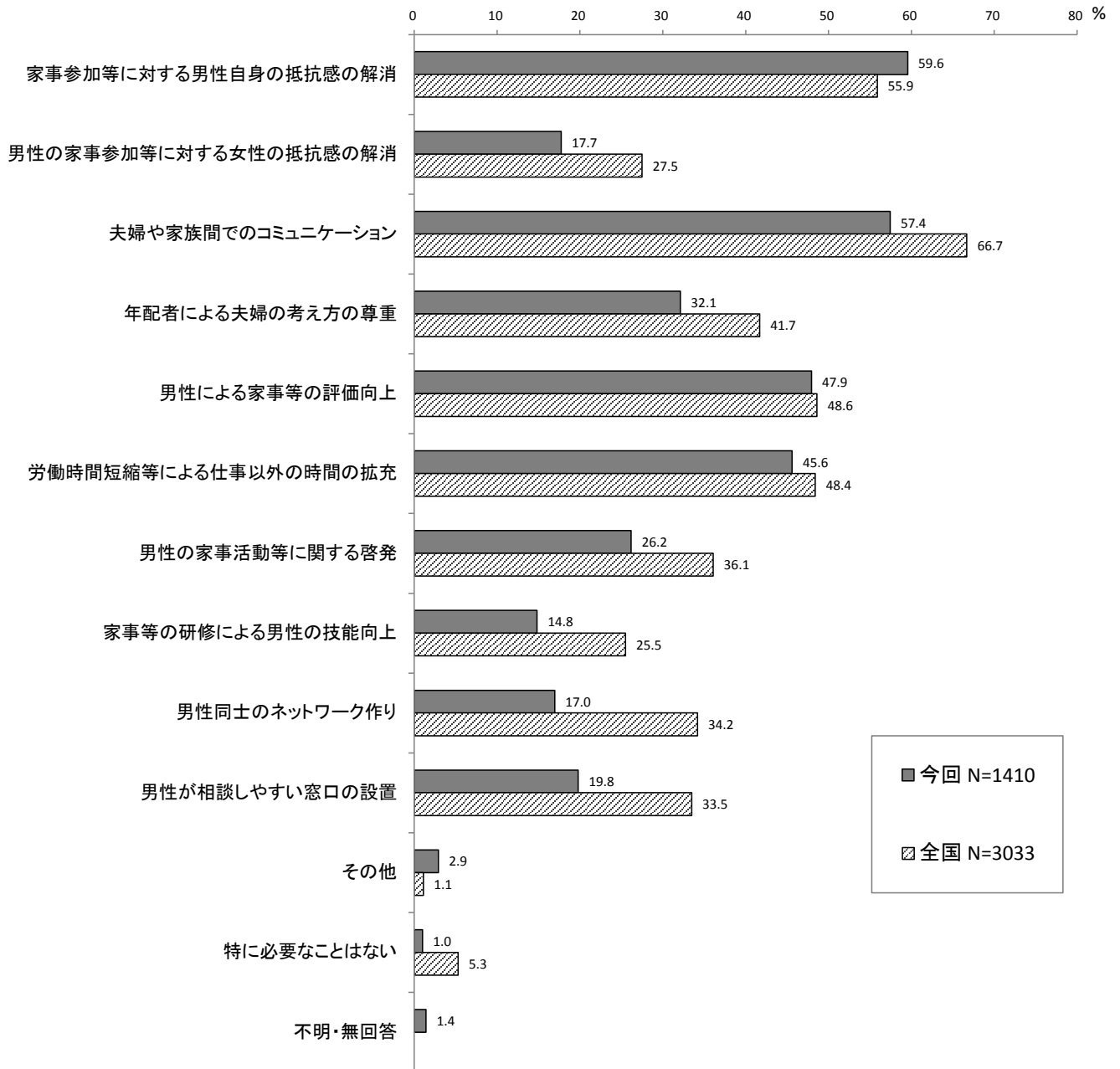
【性別】

女性では「家事参加等に対する男性自身の抵抗感の解消」が 66.4%と最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーション」60.1%、「男性による家事等の評価向上」50.7%となっている。男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が 53.4%と最も多く、次いで同率で「家事参加等に対する男性自身の抵抗感の解消」及び「労働時間短縮等による仕事以外の時間の拡充」49.3%となっている。



【全国比較】

奈良県では「家事参加等に対する男性自身の抵抗感の解消」が最も多く、この項目のみ、奈良県が全国を上回る。次いで、奈良県では「夫婦や家族間でのコミュニケーション」となっているが、全国ではこの項目が最も多い。全国と比べ、「男性同士のネットワーク作り」で 17.2 ポイント、「男性が相談しやすい窓口の設置」で 13.7 ポイント少ない。



※全国：平成 24 年度 男女共同参画社会に関する世論調査

(12) 地域社会への貢献

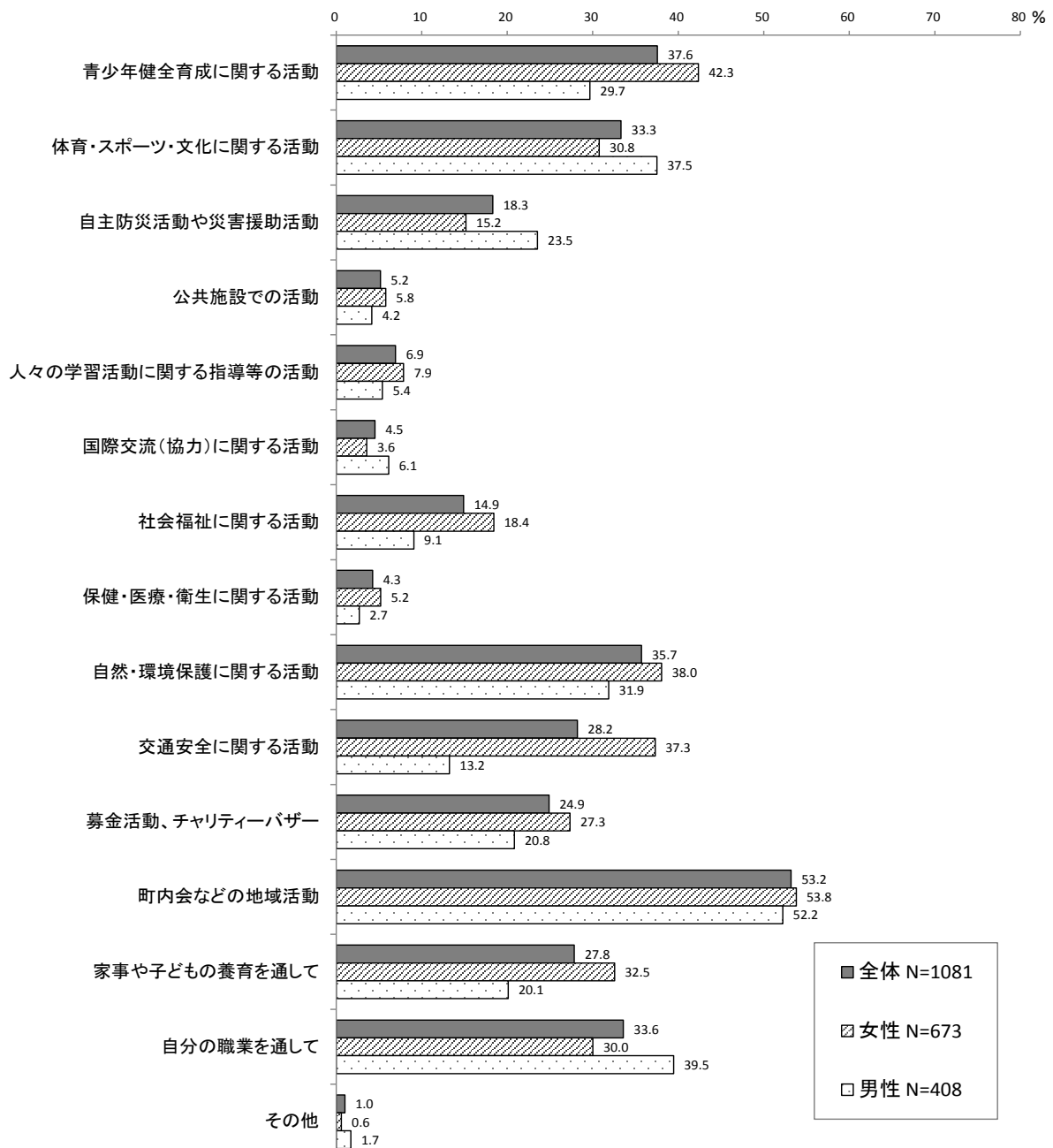
問 23 あなたは、どのような活動を通じて社会に役立ちたいと思いますか。次の1～15の中から ①これまでに行ったことのある活動、また、②今後行いたい活動について、それぞれお答えください (〇はそれぞれいくつでも)

《これまでに行ったことのある地域活動》

「町内会などの地域活動」が53.2%と最も多く、次いで「青少年健全育成に関する活動」が37.6%、「自然・環境保護に関する活動」が35.7%となっている。

【性別】

男女ともに、「町内会などの地域活動」が最も多い。次いで女性では「青少年健全育成に関する活動」、「自然・環境保護に関する活動」、男性では「自分の職業を通して」、「体育・スポーツ・文化に関する活動」となっている。女性の方が男性に比べて特に多い項目は、「交通安全に関する活動」、「青少年健全育成に関する活動」、「家事や子どもの養育を通して」であり、それぞれ24.1ポイント、12.6ポイント、12.4ポイント多い。



※地域活動をこれまでに行ったことがある方(76.7%)が回答

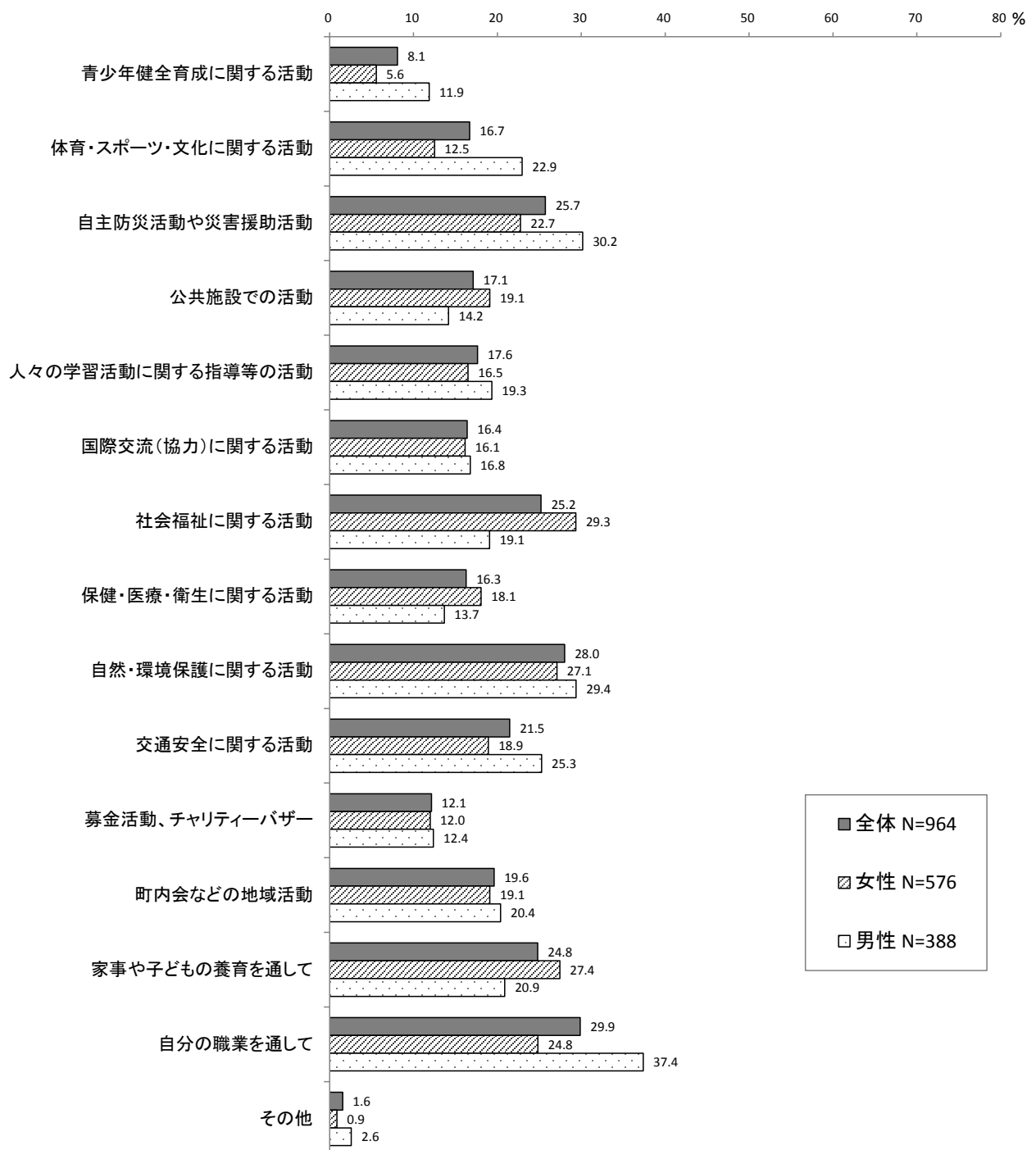
《今後行いたい地域活動》

「自分の職業を通して」が29.9%と最も多く、次いで「自然・環境保護に関する活動」が28.0%、「自主防災活動や災害援助活動」が25.7%となっている。

「公共施設での活動」、「人々の学習活動に関する指導等の活動」、「国際交流（協力）に関する活動」、「保健・医療・衛生に関する活動」については、前項目では活動経験者が少ないが、今後は行いたいという男女が多い。

【性別】

女性では「社会福祉に関する活動」が29.3%と最も多く、次いで「家事や子どもの養育を通して」、「自然・環境保護に関する活動」となっている。男性では「自分の職業を通して」が37.4%と最も多く、次いで「自主防災活動や災害援助活動」、「自然・環境保護に関する活動」となっており、男女により異なっている。

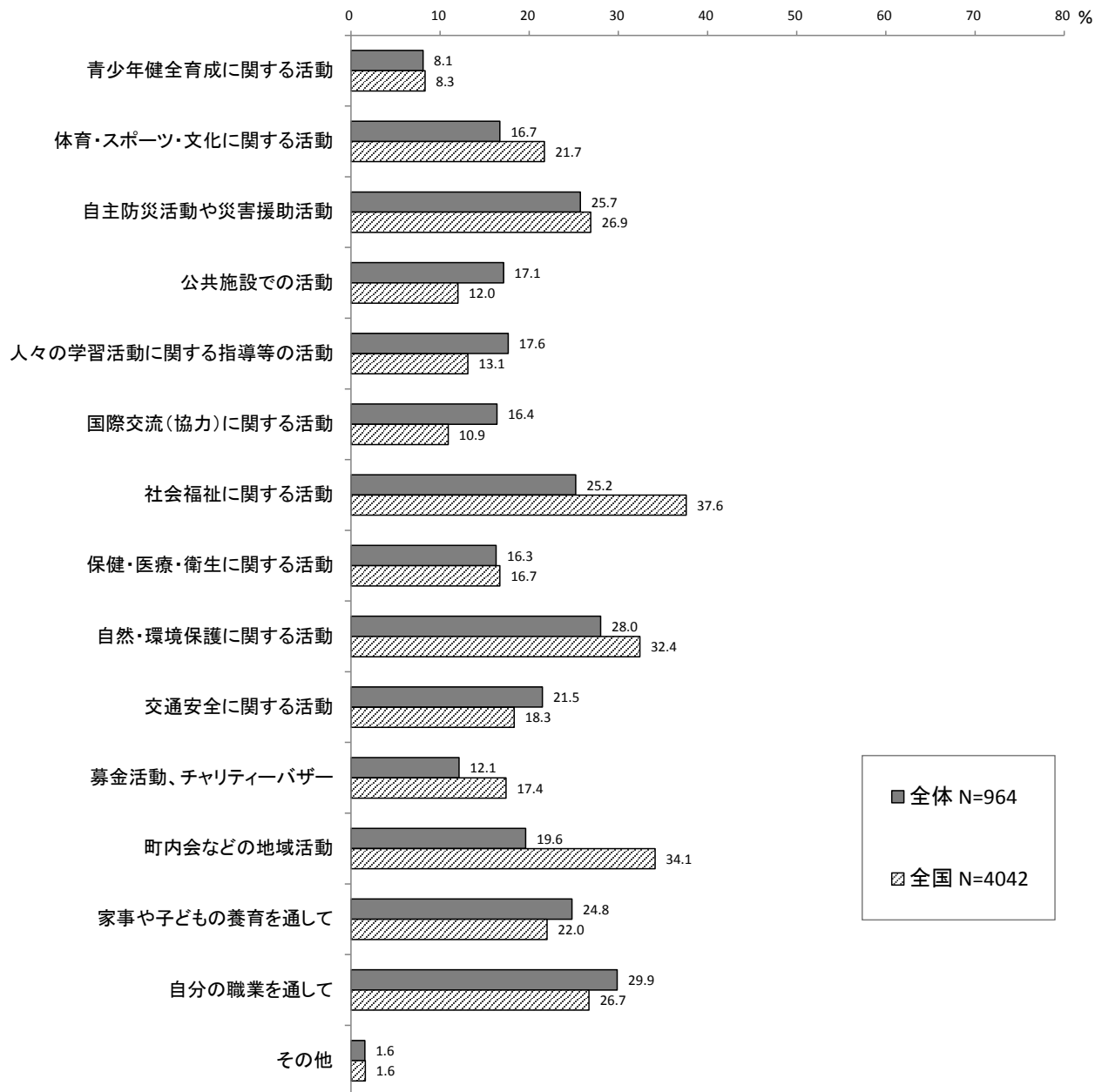


※今後行いたい地域活動がある方（68.4%）が回答

【全国比較】

全国は「社会福祉に関する活動」「町内会などの地域活動」「自然・環境保護に関する活動」の順に多い。奈良県は「自分の職業を通して」「自然・環境保護に関する活動」「自主防災活動や災害援助活動」の順に多い。

一方、全国に比べて特に多い項目は、「公共施設での活動」、「人々の学習活動に関する指導等の活動」、「国際交流（協力）に関する活動」で、それぞれ約5ポイント多い。



※全国：平成25年度 社会意識に関する世論調査